

施設名	足立区立伊興大境保育園
施設所在地	足立区西竹の塚1-10-5-101
法人名	社会福祉法人高砂福祉会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然」

<テーマの設定理由>

園庭や散歩で訪れる公園などの園周辺に緑が多くあり、その自然を生かした活動内容にすることで、より主体的な子どもたちの言動が引き出せると考えました。また、園では各クラスで栽培しているイチゴ、ピーマン、ヒマワリ、ヘチマ、シャガイモ、小松菜を活動に取り入れることで、より身近な活動になると考えました。園の特色として、食育に力を入れているため、自然というテーマから食べ物に派生して活動を行ないたいという見通しを立てることに結びました。

## 2. 活動スケジュール

令和7年6月から令和7年10月まで

- 6月：様々な芋の種類を比較し、違いに気付く
- 7月：葉を観察し、匂いや手触りなどを楽しむ
- 8月：様々な種を比較する
- 9月：実から種を採取する
- 10月：発芽を観察する

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<準備物>

- ・スマートフォン（記録用）、ルーペ、紙皿、すりおろし器
- ・野菜（長芋、シャガイモ、里芋、サツマイモ、小松菜、トマト、ピーマン、ゴーヤ、枝豆、さやいんげん、そら豆、カボチャ）
- ・果物（桃、リンゴ）
- ・葉（園庭の植物、ヘチマ、ピーマン）
- ・種（スイカ、グレープフルーツ、ネギ、ほうれん草、ピーマン、カブ）
- ・発芽する野菜（豆苗、スプラウト）
- ・図鑑（野菜、植物）

<環境設定>

栽培している植物を他クラスも含めて観察できるようにテラスに設置した活動内容によっては自由に手に取ることができるように置いた

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

身近な野菜や果物を使って、根、葉、実、種にそれぞれ焦点を当て五感を使ってじっくりと観察を行いながら、植物への興味関心が深まるように活動を展開しました。

##### 【5月】

園で育てていたジャガイモの収穫を行いました

##### 【6月】

自然、植物の中から根っこに着目し、芋の比較を行いました。半分に切る、すりおろす、こする、などをしながら直接触れる体験をしました。

##### 【7月】

葉に着目し、園庭から葉を摘むところから取り組みました。匂いを嗅ぐ、ルーペで見る、形を例えるなどをして比較していました。その他にも、擦りだしの技法を使って葉の模様を浮かび上がらせるなど、あそび感覚で楽しみながら観察ができるよう工夫をしました。

##### 【8月】

種に着目し、種を切ったりルーペで見たりして気づきを膨らませることや種から実を想像する、様々な豆に触れることを行ないました。活動の中で、種がある野菜とない野菜があることに子ども達が気づき、なぜだろう？と疑問を感じていました

##### 【9月】

様々な食材を用意し、種のある食材、種のない食材を調べる活動を行いました。種のある果物と一緒に敢えて種の無い葉野菜を用意し、一人ひとりが主体的に考えることができるよう、観察の前には「予想を立てる」時間を設け、子どもが主体的に考えることに繋がりました。

その後、取り出した種について、お子さん達から「植えてみたい」という声が出た為、プラターに植えたり水につけたりしてその後の様子を観察しました。また、子ども達の種への興味をさらに広げるため、スプラウトを使って発芽の観察を行いました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【2・3歳児】

野菜や果物、植物など実物を自由に触ることができることに夢中になっており、種を無心で取ったり、繰り返し葉のにおいを嗅いで、「チョコレートのおいがする」「パイナップルのにおいに似ているね」等、子どもならではの例え方でにおいを表現し、子ども同士で遊びを展開させる様子も見受けられました。

【3歳児】

保育士から疑問を投げかけると感じていたことを言語化しようと「葉の中に線があった」「葉っぱの線にもいろんな形があった」などの気付きに発展してました。

【4歳児】

子どもの発言から考察が広がるようになり、「果物と野菜には、種がある物と無い物がある」

「この小さい物は種ではないか」という子ども同士の投げかけ合いも見られました。

5歳は細かい着目点が多く、芋、豆では同じ仲間でも性質が異なることに驚きと発見があり、「なぜ皮からヒゲが出ているのか」ということやすりおろすと粘り気が出ることなど疑問が多く上がっていました。

【4・5歳児】

自分たちで不思議に感じたことを発言することが多く、芋の観察を行ったあと、給食で出てきたシチューのじゃがいもについて子ども同士で会話がはずんだり、種を取り出す活動後、おやつに出てきたバナナの種を一生懸命探そうとする子どもの姿が見られ、探究活動を通して食べ物への興味関心も広がっていることを実感しました。

さらに、自分たちで疑問を解決しようと子ども同士で話し合っている様子もあり、発芽したスプラウトを見て、「なんでこんなに小さいのに葉っぱがたくさん出るんだろう？」といった疑問が子ども達から出てきた際には、「お日様が必要なんだよ」「お水を一杯吸ったからじゃない？」と、子ども同士で意見を出し合っている姿が見られました。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

「自然」のテーマで取り組み、園庭で見つけた植物や自分たちで育てた野菜を題材にすることで、興味を持って意欲的に取り組むことができました。はじめは、子ども達の疑問に対して「答え」を導かなくてはいけないと考えていましたが、活動を進めていく中で、子ども達から出てくる自然なつぶやきや「なぜ？」という問いに耳を傾けることの大切さに気づき、そうした子ども達からの声をヒントに次の活動を展開していくことで、子ども達がより自主的に楽しんで参加するようになりました。

また、活動後に自ら図鑑で植物について調べたり、水遊びで園庭の植物に水やりをする姿が見られたり、給食やおやつに出てくる果物や野菜に興味を示すようにもなり、探究活動をきっかけに、子ども達の自然に対する興味関心が一層広がったと感じています。

ルーペ等の新しい道具も、回を重ねるごとに上手に使いこなせるようになり、日頃の外遊びでもルーペを使って身近なものを観察する姿が見られます。自由に観察物に触れたり道具を使ったりする経験を通して、「自分で考える力」が育まれていくことは、保育者にとっても大きな気づきとなりました。

今後の保育でも、子ども達の何気ない一言や表情を大切に受け止め、主体的に過ごすことができるよう様々な体験を提供していきたいと思います。